

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2795000328		
法人名	有限会社 ノーマルライフ		
事業所名	グループホームおてんとさん		
所在地	大阪府東大阪市吉田1丁目5番30号		
自己評価作成日	平成26年8月15日	評価結果市町村受理日	平成26年10月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 MIRO谷町 4階		
訪問調査日	平成26年9月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ol style="list-style-type: none"> 施設全体が、地域密着型・多機能型の在宅介護支援施設として位置付けていること。 地域の社会資源を活用し、利用者の日常生活やケアプランに位置付け、地域との交流を行っている。 (例えば、商店街やスーパー等での買い物、コミュニティカフェでの喫茶や交流など) 午前には体操(みんなの体操、ラジオ体操、嚙下体操)、午後はレクリエーション等を日課に取り入れている。 利用者のADLや意欲・能力等に配慮しながら、洗濯(干し、取り入れ、たたみ)、食事(買物、調理、盛り付け、配膳、下膳)、掃除など日常生活行為の中で「生活リハビリ」を行っている。 複合施設の利点を活かし、2Fの共用型認知症デイサービスや1Fの通常型デイサービスとの合同行事を行い、交流を行っている。(例えば、共同でカラオケ、餅つき等行事を共催、その他)
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>商店街の活性化を志した社長の下で、地域に根差した施設の有り方を追求している。開所して2年弱、中高年を主体とした当初からの職員を中心に、その長所・短所、各人の経験歴を活かしながら「おてんとさん」らしいケアスタイルを築きたいと努めている。</p> <p>生活リハビリで暮らしの主体者として、役割と関係づくりで居心地よく、地域や社会との関りを忘れずに、その人らしく普通の暮らしが継続されることに寄り添うとした姿勢が随所に見られる。サービスの成果に関する自己評価への謙虚さが、次へのステップアップにつながり、地域密着型の多機能性をよりよく発揮し、利用者や家族、地域の信頼と安心の拠り所としての発展に期待する。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	個々の生活歴や在宅での環境や馴染みの関係を考慮し、施設での生活が受け身にならない様に、個々の役割づくりや関係づくりに留意し、意欲を引き出す。ミーティングやOJTで徹底。	理念の一つに「地域や社会との関わり合いを大切にする」を掲げ、暮らしの主体者としての支援に繋げるよう努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	当法人が開設した、コミュニティカフェ・ひだまりをスタッフと一緒に入居者が利用し、地域住民等との交流を行っている。また、高等支援学校の職業体験時には、お客さんとして参加している。	カフェでの出会い、商店街行事への参加、駐車場が祭り山車の休憩所になるなど、法人代表者の地域とのつながりを活かしての様々な交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人代表者が隣接の商店街の会長を務めており、この度、平成25年度高齢者に優しい商店街づくり事業を市から委託を受けた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームの入居者や運営状況、不穏時の対応などの説明と報告を行っており、ご家族等の要望等も伺い、随時対応している。入居者も会議に参加して、発言して頂いている。	商店街活性化の取組を一緒に進めている。地域とのつながりを意図して深く保ち、利用者の支援に役立っているが、運営推進委員会が規定通り年6回開けていない。	利用者の支援を考える意見交換の会であることを考えると、諸事情をクリアされ規定の開催に向け、昨年に引き続き達成に向け努力されることを望む。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて、事業運営における質問や助言など担当者に問合せをしたりしている。	当事業所に東大阪初の認知症対応型通所を併設の関係もあり、その他諸々の事業相談、情報交換など良好な関係が維持されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの実践と高齢者虐待防止の意義や説明をマニュアル等に基づき職員に周知している。	身体拘束については十分に理解しケアに活かしている。1階玄関、エレベーター、ホーム出入り口は原則として開錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束をしないケアの実践と高齢者虐待防止の意義や説明をマニュアル等に基づき職員に周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、対象者がいないので実践はしていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書に基づき、説明と理解を得た上で、十分な理解を得て契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年恒例餅つき大会において家族の参加を頂き、要望を聞く機会を設けている。又、「ご意見箱」を設置しており、得たご意見は職員に随時報告し運営に反映するよう話し合っている。	行事への参加時や普段の来訪時に、努めて意見や要望を聞きとるようにしている。開所して2年弱、家族との付き合いは徐々に深まり、本音を聞き出す機会と力を増したいとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員とのミーティングを随時行っており、その中で機会を設け、職員からの要望や意見交換などを行い、事業に反映している。	職員2人からなる代表者と管理者との面談、現場の声を法人代表者に繋ぐと言う形で、要望・意見を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者を第一義的にして、勤務状況、労働条件の改善や職場環境づくりを行っている。その中で、代表者が管理者からの報告や相談を受け、対応や支援、決定を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は度々、現場に入りながら、管理者や職員の状況を把握し、必要に応じて社内外の研修とスキルアップの為に資格取得に関する研修を受けるように促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は、法人内での事業者間交流は行っているが、対外的な交流は行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人との信頼関係の構築に繋がる関係書類を参考にしつつも、本人の不安や想いをしっかりと傾聴することを心がけている。ご本人にも事前に見学して頂く様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との信頼関係を構築する上で、関係書類を参考にしつつ、家族の話や想いをしっかりと傾聴することを心がけている。また、事前に見学して頂くようお願いしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時からご本人が安心し、環境に慣れるまでは、随時ミーティングにより職員間で情報の共有化を図り、家族や関係者と連携をしながら、必要な支援や対応方法を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、ご本人がグループホームにおいて生活をする上で、あくまで「伴走者」であることに留意し、日常生活を共に過ごし、協働し、支援する中で信頼関係づくりを行うよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係づくりを常に心がけながら、毎月の利用料授受時や面会等の機会を活かしながら、本人の情報提供や家族とのコミュニケーションを図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の家族、親戚や友人などが面会に来られた時は、自室にて一緒に珈琲を飲んで頂いたり、会話をして頂く等、いつでも来てもらいやすい関係づくりや環境づくりを支援している。	多目的室を設け、家族以外の来訪者との関係づくりに配慮している。階下にある通所との共同行事も馴染みの繋がりになっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の状況や相性等の把握を行った上で、利用者同士の関係づくり、場・環境づくりが上手く出来る様に、職員が声掛けや環境設定などの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡退所した利用者の家族さんが、その後も当施設を来所され、利用者と話しかけていることがあった。本人、他の利用者、家族等の関係づくりが出来ていたと感じた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ利用者とのコミュニケーションをとる機会を設け、気分や過ごしやすさ等の様子を伺っている。意向を出しにくい方に対しては、選択しやすい聞き方をしよう心掛けている。	散歩や入浴時のひと時を大事なコミュニケーションの機会とし、できること・したいこと・いやなこと等、暮らしへの意欲と機能を引き出す努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートや、ご本人又は家族等との面談等を通じて、必要とする関係情報の把握に努める。また、コミュニケーションを密に図る事で情報を引き出すように心掛ける。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前と入居後の情報が違う場合もあるので、個々の生活リズム(起床、就寝時間等)や生活習慣などの把握と、個々の残存能力の把握を行い、定期的にモニタリングを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に個々の利用者のアセスメント及びモニタリングを繰り返しながら、関係者と話し合いを持ち、介護計画を作成する。	個別の支援記録や支援経過記録を基に、職員や関係者との話し合いを重ねての介護計画作成と、その見直しを図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別介護記録において日々の様子やケア実践等を記録し、バイタル及び排泄、入浴等の記録等も含め、モニタリングや介護計画作成の根拠として反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームの他に認知症対応共用型通所介護、通所介護や訪問介護、居宅介護支援を併設した多機能型であり、それぞれの垣根を越えた職員の研修や協力関係を構築している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当施設全体を地域における認知症高齢者を支える社会資源として位置付け、関連の地域資源(高齢者サロンやカフェ)を開発し、活かし、連携しながら地域支え合い活動を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当施設のかかりつけ医はつきやま内科としているものの近隣から入居された利用者において、往診、訪問歯科なども含め、従前から主治医が居る場合は継続してもらっている。	在宅から継続の主治医や訪問歯科医の往診も含め、協力医への同行受診や、家族に付き添っての受診にも対応し、各医療機関との関係も良好に維持され、本人、家族の安心・満足は充足されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設には1Fのデイサービスに看護師を常勤配置しており、日中の異変や緊急時の対応、医療機関への連絡など協力体制がある。また夜間及び休日のオンコール体制も敷いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後、一定期間を経た後に、早めに当該医療機関の関係者と情報交換や家族等の意向も踏まえ、早期の退院に向けた話し合いを行う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所としてターミナルケア等のあり方について、まだご本人や家族と具体的な話し合いなどが出来ておらず、事業所としての役割や支援についての取組みは今後の課題となっている。	今後は看取りケアの必要性も考え、終末期ケアの指針作りや、それに備えての職員研修についても検討し、実行に努めたいとしている。	一般的に施設での看取り要請が高まる中で、様々な課題はあろうが、利用者と家族の要望を確かめつつ、協力医や職員との話し合いによる対応体制の整備に努めることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所開設時の新規採用職員研修で消防署員を招き、救命救急講習会を実施した。毎年1回は同講習を未受講者を対象に行いたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域(近隣)との共同避難訓練を検討していたが、まだ実施できていない。避難マニュアルが有効機能するかどうかの検証も今後の課題となる。	規定の訓練はあるが、夜間想定や火災以外についての訓練は実施していない。一時避難場所の指定を受けているが、近隣との協働体制を今後の課題としている。	事業所が住宅地に位置することを考慮して、近隣お互いさまの、想定し得る広範囲の災害対策を講じることを望む。同館内の通所介護を含めて、規定以外の繰り返し訓練も必要である。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者には常にそれぞれの人生を生きてきた人生の最終舞台で縁あって日常生活の支援をさせて頂いているということをお忘れずに尊厳の維持とプライバシーの確保に努めている。	開所してほぼ2年、利用者と職員の親しみも深まる中で、自尊心への配慮と、プライバシーの保護という原点を忘れないケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中では、食事の嗜好を常に意識して伺ったり、何か選ぶ時には具体的な選択肢を示し、自己決定しやすい問いかけに留意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活においては生活のリズムづくりや心身の刺激や活性化の観点から、プログラムを作成しているが、その日の天候や体調及び気分、希望によって臨機応変に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	オシャレやお化粧品は個々でして頂いている。2か月に1回は訪問理美容を行っているが、行きつけの理美容店がある場合は家族の協力を頂き、外出して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は日常生活の中で最も重要なシーンと位置け、音、匂い、仕草などが見える事により五感を刺激し、食欲を引き出す工夫を行っている。また準備や後片付けも手伝って頂いている。	毎日の摂食チェック表を参考に、季節や好みに応じた献立で日々の担当職員が調理し、利用者の適宜な参加もあって、職員も一緒に美味しく楽しく食事が進んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事内容やその摂取量等を個別に記録しており、各個人別の疾病による食事規制、摂取量、嗜好や嚥下状態など考慮して、普通、刻み、ミキサー等きめ細かい食事の提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食事後、個別の口腔ケアを実施している。口腔ケアの内容や実施状況等の記録を行っている。歯科医師からの指示がある場合は職員に周知し、それに沿ってケアを行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を把握しながら、実際の生活の中で、予兆や仕草、排泄パターンの把握に努め、個々の排泄自立に向けた計画を立て実施している。	利用者の身体面や心理面の特性を理解し、おむつやパッドの種類、使い方にも留意しながら、排泄の自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容、水分補給、適度な運動や刺激、服薬など総合的な視点が必要である為、個々の状況を見極めながら対応を行っている。当施設では、朝食時を基本に乳製品を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週3回(隔日)を基本とし、曜日や時間を個別に定めているが、身体状況等により随時入れ替えや変更を行い、又、楽しく入浴できるように、個々に会話や歌などを取り入れている。	2方向から介助できる浴槽は、大きさも適切であり、2人介助が必要な利用者にも安心感がある。職員が利用者との会話楽しむひと時を、貴重なものとして個別ケアに活かしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活のリズムや心身の状況を把握し、必要な時は自室にて休んで頂く様に促している。又、就寝間にはコミュニケーションを密にとり、安心して頂けるように心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用開始時の内容、副作用、用法などを管理者及びミーティング時に周知し、服薬確認一覧表も確認する。服薬後の変化があった場合は、必ず記録に残し、医療機関に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	かつて(又は今)好きだったこと、やっていたこと、やりたいと思うこと、それが人から喜ばれること、また意味あることなどを念頭に日々の生活の中で役割作りを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	午前と午後、食材購入に出掛け、定期通院も行っている。又、コミュニティカフェに行ったり、花園中央公園等にも外出している。家族の訪問時には外出や外食も協力して頂いている。	気候・天候・体調に配慮しながら、かなりの頻度で様々な外出支援が行われている。芝生園庭での寛ぎタイムもあり、外気浴の機会も十分に得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々のアセスメントを行い、本人や家族等の希望を伺った上で、基本は職員が金銭管理をしながら、買物等の場面では、時にはお金を使える様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から家族等への電話希望等については随時、電話かけや取次などの支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	設計段階において、太陽光、風、空間、色、体感温度などについては十分に考慮し、窓の位置や居室、その他の部屋等の配置に気を付けている。食堂・リビングにおける床暖房も設備している。	設計時の配慮が活かされた、温かみのある生活空間がある。同じスペースに在る認知症対応型通所に要する空間も、必要に応じて入居者の静養やひとり居場所にも活かされおり、交流の場としても良い環境が保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間においては41.64㎡(1人当たり約4.62㎡)と余裕があり、利用者の関係性や相性等も含め、座る配置を考慮している。又、ソファ等家具の配置も検討している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族等の協力も得て、なじみの物や写真、中には仏壇等も置かれている。又、個々の身体等の状態に合わせて家具等を購入し、それぞれの居心地づくりに工夫を行っている。	夫々の生活歴を活かし、好みにあった調度類で整えられた居室は、普通に自分らしく暮らす様子がうかがえる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が生活の主役であり主体者であることを忘れず、個々の残存能力や可能性を把握し、ご本人が安全に自身で出来る様道具や環境設定等、声掛けや見守りなどを行っている。		